

小学校教育課程の課題：総合的な学習の指導方法

著者	菊池 健夫
雑誌名	東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学
巻	40
ページ	83-92
発行年	2000
出版者	東京家政大学
URL	http://id.nii.ac.jp/1653/00009043/

小学校教育課程の課題 ——総合的な学習の指導方法——

菊池 健夫

(平成11年9月27日受理)

The Subject on System of Elementary Curriculum — A Teaching Method in Elementary Synthetic Learning —

Takeo KIKUCHI

(Received on September 27, 1999)

標記の主題を受けて、昨年度の教育課程審議会の答申と昨今の小学校の総合的な学習の課題を把握し、小学校児童の当該学習に対する意識調査の結果を提示して対応の方策を提案してみたい。

I. 教育課程の基準の改善

平成10年7月29日、教育課程審議会の最終答申があった。このことについて触れておきたい。

1. 教育課程の基準の改善の方針

各学校段階の役割の基本として、小学校においては、個人として、また、国家・社会の一員として社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度の基礎を身に付け、豊かな人間性を育成するとともに、自然や社会、人文化など様々な対象とのかかわりを通じて自分のよさ・個性を発見する素地を養い、自立心を培うことが求められている。と、述べられている。

2. 時代を超えて変わらない価値あるもの

中央教育審議会の第一次答申において述べられているとして次の記述がある。

正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などの豊かな人間性を培うこと、国語をしっかりとし身に付けること、我が国の歴史や文化を学び、それらを大切にすることを培うこと、たくましく生きるため

の健康や体力を培うことなどの重要性が指摘されている。

3. 教育課程の基準の改善のねらい

- (1) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
 - ・自他の生命や人権を尊重する心
 - ・広い視野で異文化を理解する
- (2) 自ら学び、自ら考える力を育成すること
 - ・自ら学ぶ意欲を身に付ける
 - ・話し合いや討論の活動の工夫
 - ・知の総合化の視点の重視
- (3) ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
 - ・完全学校週五日制の円滑な実施
 - ・生涯学習の考え方の推進
 - ・よさや可能性の伸長
 - ・個に応じた指導の工夫
- (4) 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること
 - ・総合的な学習の時間の工夫

4. 各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的な考え方

(道徳教育)

- ・人間としての生き方の自覚を促す

(国際化への対応)

- ・我が国の歴史や文化・伝統に対する誇りや愛情と

理解を培う教育との関連

- ・総合的な学習の時間の工夫

(情報化への対応)

- ・情報活用能力の育成

- ・総合的な学習の時間の工夫

(環境問題への対応)

- ・身近な自然環境から地球規模の環境までを対象

- ・総合的な学習の時間の工夫

(少子高齢化社会への対応等)

- ・幼児期の教育環境を整える

- ・総合的な学習の時間の工夫

(横断的・総合的な学習、教育課程の基準の大綱化・弾力化)

- ・大綱化・弾力化の工夫

- ・総合的な学習の時間の工夫

5. 「総合的な学習の時間」について

ア. 創設の趣旨

- ・各学校が地域や学校の実態等に応じて創意工夫を生かして特色ある教育活動を展開できるような時間を確保すること。
- ・自ら学び自ら考える力などの『生きる力』を育むことを目指す今回の教育課程の基準の改善の趣旨を実現する極めて重要な役割を担うものである。

イ. ねらいや学習活動

(ア) ねらい

- ・各学校の創意工夫を生かした横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習などを通じて、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることである。
- ・自己の生き方についての自覚を深めることも大きなねらいの一つである。

(イ) 教育課程上の位置付け

- ・この時間のねらい、この時間を各学校における教育課程上必置とすることを定めるとともに、それに充てる授業時数などを示すと定めることとし、各教科等のように内容を規定することはしない。
- ・教育課程の基準上の名称については「総合的な学習の時間」とし、各学校における教育課程上の具体的な名称については各学校において定める。

(ウ) 学習活動

- ・(内容) 具体的な学習活動としては、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて適宜学習課題や活動を設定して展開する。小学校において、国際理解教科の一貫としての外国語会話が行われるときには、各学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする。

- ・(方法) 自然体験やボランティアなどの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に展開する。

また、校内にとどまらず、地域の豊かな教材や学習環境を積極的に活用することを考慮する。

- ・(指導体制) ある時期に集中的に行うなどこの時間が弾力的に設定できるようにするとともに、グループ学習や異年齢集団による学習など多様な学習形態や、外部の人材の協力も得つつ、異なる教科の教師が協力し、全教職員が一体となって指導に当たるなど指導体制を工夫する。

(エ) 授業時数

- ・小学校においては、別表1 第3・4学年105、第5・6学年110(年間)
- ・低学年において総合的な性格をもつ教科である生活科が設定されていることや生活科を中核とした他教科との合科的な指導が進められていることなどを考慮して、第3学年以上に設定する。

(オ) 評価

- ・活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、児童のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて、適切に評価する。
- ・指導要録の記載においては、評価は行わず、所見等を記述する。

II. 社会から学校教育への要請

1. 中央教育審議会や教育課程審議会等の答申
学校教育に対しては、社会から様々な要請がある。すなわち、どのような人間を育てるのかを課題として提示

している。このことについて昨年度までの3年間、生活科学研究所の総合プロジェクト研究Bで追究してきた。そこでの成果を今後に生かすには、総合的な学習の場があるのではないかと提案した経緯がある。

□社会的要請に関する主要な事項

(1) 昭和40年 中央教育審議会「期待される人間像」は、第一部「直面する日本人の課題」・第二部「日本人に特に期待されるもの」から成っている。その第二部の(1章)「個人として」に次の項目がある。

- ① 自由であること
- ② 個性を伸ばすこと
- ③ 自己を大切にすること
- ④ 強い意志をもつこと
- ⑤ 畏敬の念をもつこと

(2) 昭和46年 中央教育審議会「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的な施策について」では(第2章)初等・中等教育の改革に関する基本構想に、次の事項がある。

1. 初等・中等教育の根本問題

- ① 発達段階や個の特性に応じた教育内容・方法
- ② 教育水準の維持・向上
- ③ 優れた教員の確保

2. 初等・中等教育改革の基本構想

- ① 人間の発達過程に応じた学校体系の開発
- ② 学校段階の特質に応じた教育課程の改善
- ③ 多様なコースの適切な選択に対する指導の徹底
- ④ 個人の特性に応じた教育方法の改善
- ⑤ 公教育の質的水準の維持向上と教育の機会均等
- ⑥ 幼稚園教育の積極的な普及充実
- ⑦ 特殊教育の積極的な拡充整備
- ⑧ 学校内の管理組織と教育行政体制の整備
- ⑨ 教員の養成確保とその地位の向上のための施策
- ⑩ 教育改革のための研究推進措置

(3) 昭和51年 教育課程審議会「小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」は、教育課程に関する事項として、教育課程の基準の改善の基本方針があり、「教育課程の基準の改善のねらい」として次の事項がある。

- ① 人間性豊かな児童生徒を育てること
- ② ゆとりのあるしかも充実した学校生活を送れるようにすること
- ③ 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を

重視するとともに、児童生徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること

(4) 昭和56年 中央教育審議会「生涯教育について」は学校教育における生涯教育の観点として、次の指摘をしている。

○ 幼稚園教育においては、幼児の情操や創造性を育てるとともに、集団生活を通じて社会性を養うことが必要である。

小学校教育においては、まず児童の学習意欲の芽を育てることに教育の主眼を置き、具体的な活動を通じて学習指導を展開し、基礎的な知識・技能を修得させることを重視すべきである。また、児童の発達に応じて、一人一人が自主的に学び、活動する力を養うため、児童の多様な能力・関心に積極的に働きかけるように努めるとともに、基礎的な知識・技能を修得させることを重視すべきである。また、児童の発達に応じて、一人一人が自主的に学び、活動する力を養うため、児童の多様な能力・関心に積極的に働きかけるように努めるとともに、学年を超えた異年齢層の児童の接触・交流がもたらす教育的効果にも配慮し、その一層の推進を図ることが望まれる。

(5) 昭和58年 中央教育審議会教育内容等小委員会審議経過報告の中に「今後特に重視されなければならない視点」として、次の事項を挙げている。

- ① 自己教育力の育成
- ② 基礎・基本の徹底
- ③ 個性と創造性の伸長
- ④ 文化と伝承の尊重

(6) 昭和62年 臨時教育審議会「我が国における社会の変化及び文化の発展に対応する教育の実施を期して各般にわたる施策に関し必要な改革を図るための基本的方策について」の「第二次答申」(昭和61.4.2)に、21世紀のための教育目標が掲げられている。

- ① ひろい心、すこやかな体、ゆたかな創造力
- ② 自由・自律と公共の精神
- ③ 世界の中の日本人

「第四次答申」(最終答申)の「教育改革の視点」では、次の事項を示している。

- 1. 個性重視の原則
- 2. 生涯学習体系への移行
- 3. 変化への対応
 - ① 国際社会への貢献

② 情報社会への対応

(7) 昭和62年 教育課程審議会「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」(昭和62.12.24)では、「教育課程の基準の改善のねらい」として、次の事項を掲げている。

- ① 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること
- ② 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
- ③ 国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
- ④ 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

(8) 平成7年 第15期中央教育審議会発足(平成7.4.26)
(諮問事項)

- 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について
- ① 今後における教育の在り方及び学校・家庭・地域社会の役割と連携の在り方
 - ② 一人一人の能力・適性に応じた教育と学校間の接続の改善
 - ③ 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に

対応する教育の在り方

<関連事項>

- ① 学校週五日制の今後の在り方
- ② 教育上の例外措置
- ③ 世界の中の日本人の育成
 - ・マルチメディア時代の教育の対応
 - ・青少年の科学技術離れへの対応と創造性ある人間の育成
- (9) 平成8年 中央教育審議会第一次答申
「審議のまとめ」(平成8.7.19)
- (10) 平成9年 中央教育審議会第二次答申
「最終答申」(平成9.6.26)
「生きる力」の育成が強調されている。

2. 児童の意識調査

これまでに記述してきた中央教育審議会や教育課程審議会の答申等に基付いて、そこで提唱されている資質や能力並びに態度を客観的に抽出してみた。その上で、現職の教員・児童・本学の児童教育専攻の学生にアンケート形式で調査してきたところであるが、本年度は、都内5校の小学校の第5学年児童を対象に十分に持っている

生きる力に関する事項

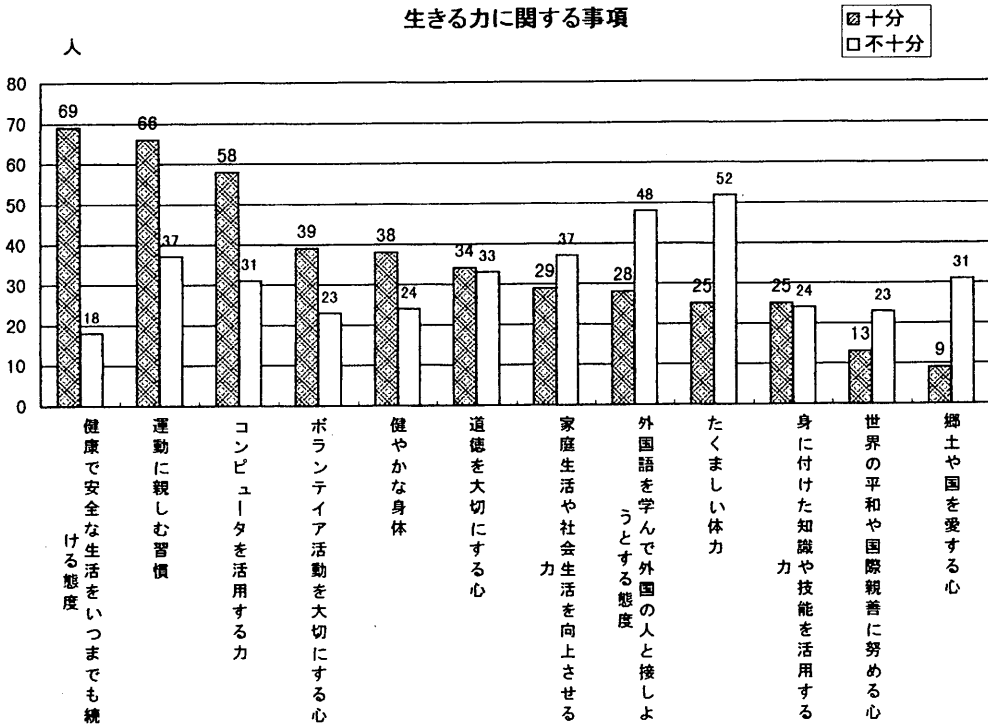


図1 児童の資質や能力 生きる力に関する事項(小学校第5学年)

N=170

小学校教育課程の課題

表1 資質や能力について

○調査日 平成11年6～7月
 人数(男子84人・女子86人 合計170人)

1. 心に関する事項 (十分 選択3 不十分 選択3)		5. 各教科に関する事項 (十分 選択3 不十分 選択3)			
	十分	不十分			
1)正しいことを大切にすること	25	53	32)正しい言葉で適切に表現する力	19	79
2)知識を求めめる心	25	59	33)国語を正しく理解する力	18	53
3)自然を愛する心	67	23	34)社会の問題をすすんで解決しようとする力	11	70
4)自分の力で物事をやっいてこうとする心	51	32	35)社会のできごとを公正に考える力	9	34
5)美しいものに感動する心	29	34	36)算数で考えたり計算したりする力	47	46
6)優れているものに感動する心	32	28	37)理科で考えたり観察したりする力	48	22
7)生命を尊重する心	36	19	38)音楽が好き	100	12
8)他人を思いやる心	55	15	39)図画工作が好き	86	14
9)感謝の心	49	9	40)芸術に対する豊かな心	20	29
10)公共のために尽くす心	7	36	41)家庭科で実践的に活動する力	57	11
11)自分の感情(気持ち)をおさえる心	32	37	42)運動をして健康な体をつくる態度	65	25
12)健やかな心	28	19	6. 国際理解に関する事項 (十分 選択1 不十分 選択1)		
13)豊かな心	26	19		十分	不十分
2. 態度に関する事項 (十分 選択1 不十分 選択1)		43)国語を尊重する態度		37	36
	十分	不十分	44)日本の文化と伝統を大切に思う心	53	21
14)自然に対する興味や関心	80	13	45)世界と日本とのかかわりについての知識	22	29
15)社会に対する興味や関心	13	36	46)諸外国の文化を大切に思う心	10	12
16)よりよいものを目指し、その実現を図る態度	19	28	47)諸外国の文化についての知識	8	23
17)自分の生きる目標を求め、その実現に努める態度	22	20	48)民主的社会の一員としての自覚	23	20
18)強い意志と実行する力	21	23	7. 生きる力に関する事項 (十分 選択3 不十分 選択3)		
19)社会のきまりを守る態度	13	35		十分	不十分
3. 生活に関する事項 (十分 選択1 不十分 選択1)		49)家庭生活や社会生活を向上させる力		29	37
	十分	不十分	50)健康で安全な生活をいつまでも続ける態度	69	18
20)日常の生活のしかた	43	20	51)運動に親しむ習慣	66	37
21)自分の生き方を自分で考える態度	36	15	52)健やかな身体	38	24
22)生活を向上させる知識や方法	13	23	53)たくましい体力	25	52
23)良いこととわるいことの判断	56	25	54)道徳を大切にすること	34	33
24)だれに対しても同じように接する態度	22	59	55)コンピュータを活用する力	58	31
4. 学習に関する事項 (十分 選択2 不十分 選択2)		56)外国語を学んで外国の人と接しようとする態度		28	48
	十分	不十分	57)身に付けた知識や技能を活用する力	25	24
25)学習に対するやる気	65	41	58)ボランティア活動を大切にすること	39	23
26)すじみちを立てて考える力	15	44	59)郷土や国を愛する心	9	31
27)新しいことを考え出す力	46	35	60)世界の平和や国際親善に努める心	13	23
28)音声や絵図などで表現する力	63	31			
29)学習したことの知識	32	20			
30)問題を自分の力で解決する力	34	57			
31)分からないことがらを自分の力で探し出す力	42	51			

N=170

もの、持っていないものとして質問してみた。その結果が表1である。

「心」に関しては、自然を愛する心や他人を思いやる心があるが、真理を求める心や知識を求める心は不十分としている。「学習」に関しては、意欲はあるが、探究心や問題解決の力は不十分であるようだ。「各教科」に関しては、音楽、図工、体育は好んでいるが、国語や社会について問題にしているようである。

また、今回の主題としたい「生きる力」に関しては、表1の前のページの図1のようになっている。

Ⅲ. 総合的な学習

1. 総合的な学習の取り扱い

文部省の小学校学習指導要領解説「総則編」の第3章教育課程の編成及び実施、第3節総合的な学習の時間の取扱いによると、概要、次のような記述がある。

(1) 創設の経緯

平成8年7月の中央教育審議会の[生きる力]を育むを根拠に創設が提言された。

(2) 総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けと授業時数

① 教育課程上の位置付け

学校教育法施行規則第24条第1項教育課程の編成を論拠とし、各教科との違いを挙げている。各教科等のように何学年においてこの内容を指導するというような細かな内容は規程していないとしている。

② 授業時数

第3・4学年が年間105単位時間、第5・6学年が年間110単位時間配当されている。1年間を見通して弾力的に授業時数を配当する。

(3) 総合的な学習の時間の趣旨

横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習などを、地域や学校、児童の実態等に応じ、各学校が創意工夫を生かして実施する。

(4) 総合的な学習の時間のねらい

① 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。すなわち、学校で学ぶ知識と生活との結び付き、知

の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識や技能等が生活において生かされ、総合的に働くようにすることが大切である。

(5) 総合的な学習の時間の学習活動

- ① 例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康、などの横断的・総合的な課題
- ② 児童の興味・関心に基づく課題
- ③ 地域や学校の特色に応じた課題

全体の年間指導計画は、学校や教師が定めるものであるが、各学習単元や課題ごとの具体的な学習テーマや学習方法などは、児童自らの課題意識や興味・関心に基づき選択・設定できるようにすることが望ましい。

(6) 総合的な学習の時間の名称

地域のシンボルや教育目標に関連した名称など、この時間の趣旨が広く理解され、児童や保護者、地域の人々に親しんでもらえるような適切な名称を定める。

(7) 総合的な学習の時間の学習活動の展開に当たっての配慮事項

① 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。

児童は、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとし、感動したり、驚いたりしながら、様々なことを考え、それを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいく。

② グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。

○興味・関心別グループ、表現方法別グループ、調査対象別グループなど

○保護者、地域の専門家、留学生、地域の学習機関、企業や工場、団体など

○校長、教頭、養護教諭、学校栄養職員、講師など
○学校図書館の資料の整備、コンピュータ、情報ネットワークの整備、スペースの整備など

③ 国際理解に関する学習の一環として外国語会話等を行うときには、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習

が行われるようにすること。

中学校の外国語教育の前倒しではなく、児童が外国語に触れたり外国の生活文化に慣れ親しむような小学校段階にふさわしい体験的な学習を行うようにすること。

(8) 総合的な学習の時間の評価

- 教科のように試験の成績で数値的に評価することはない。
- 活動、学習の過程、報告書、作品、発表や討論などの学習の状況や成果。
- 児童のよい点、意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価する。
- 指導要録の記載では、評価は行わず、所見等を記述する。

(9) 「生きる力」について

平成8年7月の第1次中央教育審議会では「生きる力」について次の項目を挙げている。

- 人間としての実践的な力
- 健康や体力
- 生きていくための知恵
- 創造性を積極的に伸ばす

- 自ら問題を解決していく資質や能力
- 国際社会に生きる日本人
- 自らの考えを築き上げていく力
- 自国の文化や伝統を尊重する態度
- 柔らかな感性
- 正義感、公正さ、基本的な倫理観、他を思いやる心、温かい心、社会貢献の精神
- 自立心、自己抑制力、自己責任、自助の精神、他者との共生、寛容、社会との調和

2. 総合的な学習についての児童の意識

(1) 調査の内容

総合的な学習については、各学校の試行錯誤的な実践が開始されたところであるが、下記の項目について、児童の意識を調査した。

① 学習の内容

国際理解、情報等の横断等の横断的・総合的な課題や児童の興味・関心に基づく課題などから選択させた。

② 学習の方法

日常の学習で実施している方法から選択させた。

学習の内容に関する事項

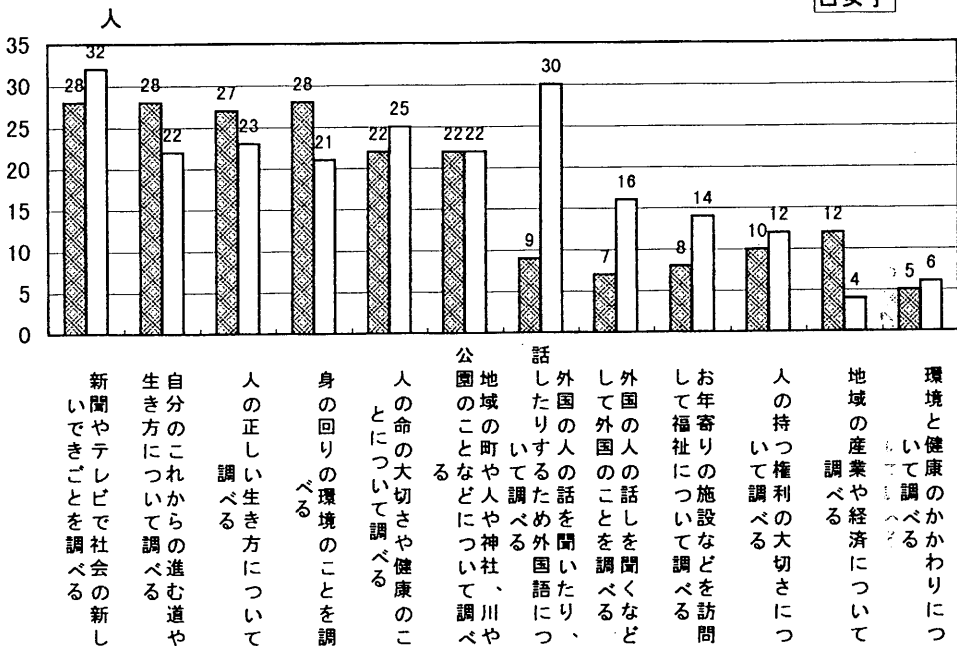


図2 総合的な学習 どのような学習をしたいか(小学校第5学年)

男子N=84
女子N=86

表2 総合的な学習について

○調査日 平成11年 6～7月

人数(男子 84名・女子 86名 合計170名)

	男子	女子	計
1. あなたは今、どのような勉強をしたいですか。(3項目選択)			
1) 身の回りの環境のことを調べる。	28	21	49
2) 環境と健康のかかわりについて調べる。	5	6	11
3) 新聞やテレビで社会の新しいできごとを調べる。	28	32	60
4) 外国の人の話しを聞くなどして外国のことを調べる。	7	16	23
5) お年寄りの施設などを訪問して福祉について調べる。	8	14	22
6) 人の命の大切さや健康のことについて調べる。	22	25	47
7) 人の持つ権利の大切さについて調べる。	10	12	22
8) 地域の町や人や神社、川や公園のことなどについて調べる。	22	22	44
9) 自分のこれからの進む道や生き方について調べる。	28	22	50
10) 地域の産業や経済について調べる。	12	4	16
11) 人の正しい生き方について調べる。	27	23	50
12) 外国の人の話を聞いたり、話したりするため外国語について調べる。	9	30	39
2. 上のような学習を、どのような方法で調べたいですか。(2項目選択)			
13) 施設や役所に実際に出かけて調べる。	13	16	29
14) 家の人や近所の人にたずねて調べる。	30	31	61
15) 学校の先生にたずねて調べる。	6	10	16
16) 図書館の資料を集めて調べる。	43	56	99
17) コンピュータを使って資料を集めたりまとめたりして調べる。	37	37	74
18) 図に描いたり模型を作ったりして調べる。	22	18	40
3. 上のような学習を、どのように工夫して調べたいですか。(2項目選択)			
19) 野山や海、川などに出かけて調べる。	37	27	64
20) ボランティア活動などを通して調べる。	8	20	28
21) 理科でよく行う 観察や実験などを通して調べる。	21	14	35
22) 社会科でよく行う 見学や調査などを通して調べる。	27	35	62
23) 学級の仲間に発表したり、仲間と議論したりして調べる。	20	35	55
24) 物を製作したり、飼育や栽培をしたりして調べる。	24	18	42
4. 上のような学習を、友達とどのような方法で調べたいですか。(2項目選択)			
25) 自分だけで、いろいろ考えて1人で調べる。	14	10	24
26) 自分の考えで、友達に協力してもらい2～3人で調べる。	26	26	52
27) 友達の考えによって、協力して2～3人で調べる。	16	15	31
28) 仲のよい友達どうしの考えで2～3人で調べる。	40	38	78
29) 仲のよい友達どうしの考えで4～5人で調べる。	13	22	35
30) 同じ考えを持つ者どうしが集まって人数に関係なく調べる。	32	41	73
5. 上のような学習を、どのように考えて調べたいですか。(2項目選択)			
31) 自分で課題を見つけて、自分の考えで自分の力で調べていくようにする。	26	19	45
32) 示された課題の中から選んで友達と協力して調べていくようにする。	36	46	82
33) 課題を決めたら、次から次へと深めたり、広げたりするようにして調べる。	19	30	49
34) 友達の考えをよく聞きながら協力して調べていくようにする。	33	46	79
35) このような学習は自分の考えを大切にして調べていくようにする。	15	6	21
36) 学級の仲間だけでなく、他の学年の人と一緒に調べていくようにする。	11	10	21

N=170

学習の方法に関する事項

男子
女子

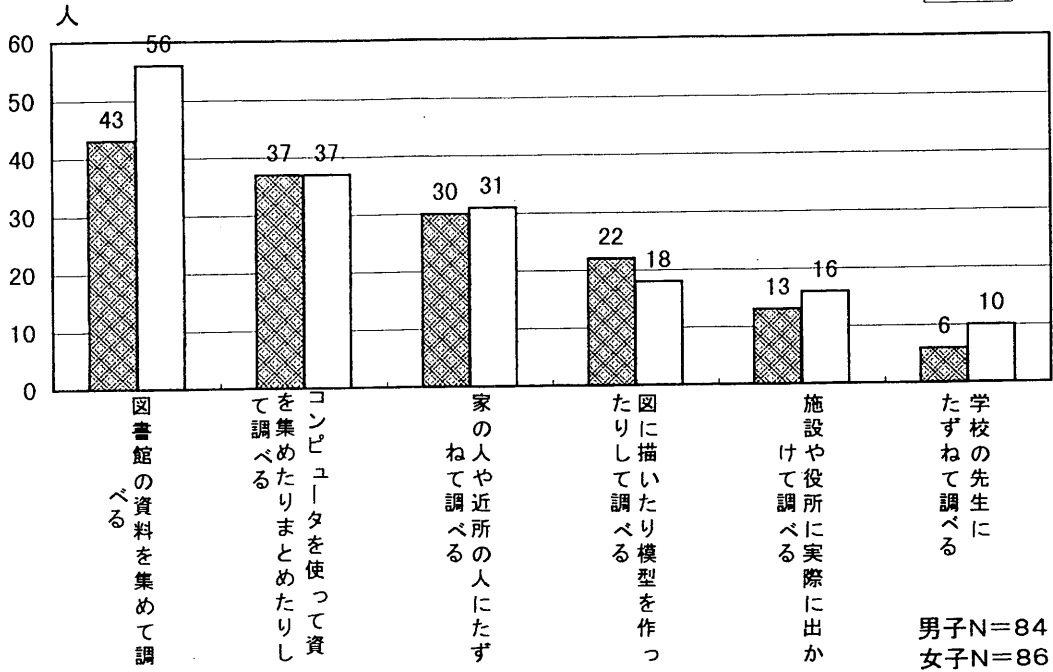
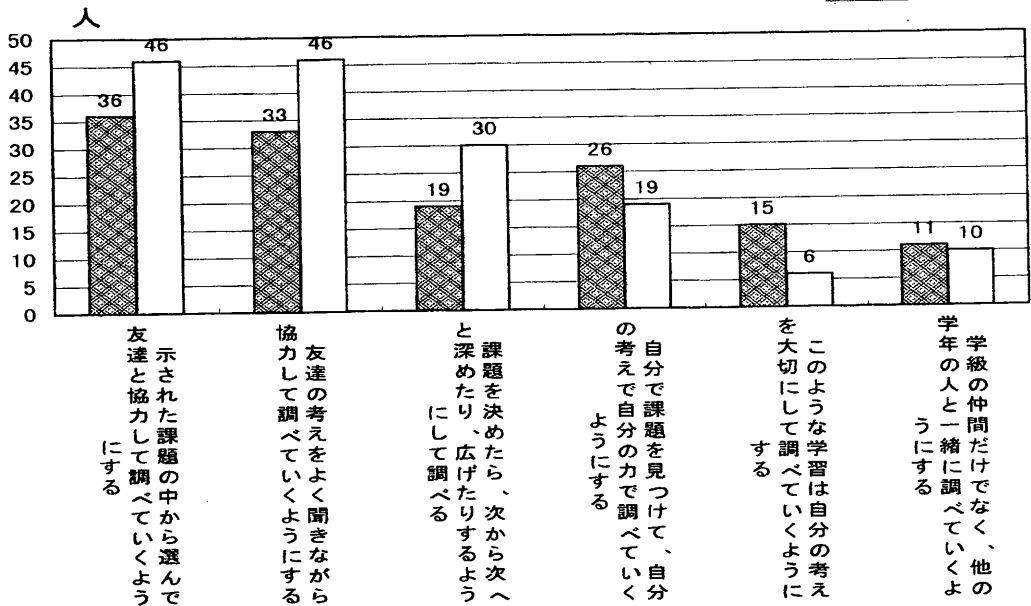


図3 総合的な学習 どのような方法で調べたいか(小学校第5学年)

自立と協力に関する事項

男子
女子



男子N=84, 女子N=86

図4 総合的な学習 どのような考えで調べたいか(小学校第5学年)

③ 学習の工夫

主として社会科，理科，特別活動などの工夫から選択させた。

④ 仲間との協力が独立か

自分の考えを中心とするのか，他の考えを大切にするのか，また，協同作業か独立作業かなどを尋ねた。

(2) 調査の結果

調査の結果のまとめは表2の通りである。学習の内容については，図2のように，身近なところに課題を求めている。女兒に国際理解に関する意識の高さが見られる。また，図3のように，情報の収集の仕方に特徴がある。なお，図4のように，女兒は協力的であり，男児は独立的な傾向があるようだ。

IV. まとめと今後の課題

1. まとめ

中央教育審議会の答申(平成8年7月19日)にある「生きる力」は次の事項を挙げている。

- ・実践力，健康な体力，生きていく知恵，創造性
- ・問題を解決する力，国際社会に生きる能力
- ・考えを築き上げる力，文化や伝統の尊重
- ・柔らかな感性，温かい心，社会貢献の精神
- ・正義感，公正さ，倫理観，思いやる心
- ・自立心，自己抑制力，自己責任，自助の精神
- ・他者との共生，寛容，社会との調和

この中で，健康な体力，創造性，文化や伝統の尊重，他を思いやる心は自らにあると児童は答えているが，他の項目はあまり自信がないようである。

今期教育課程審議会の答申によると，総合的な学習の内容として，例えばとしながら次の事項を挙げている。

具体的な学習活動としては，例えば国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題，児童生徒の興味・関心に基づく課題，地域や学校の特色に応じた課題などについて，適宜学習課題や活動を設定して展開する。小学校において，国際理解教材の一貫としての外国語会話が行われるときには，各学校の実態等に応じ，児童が外国語に触れたり，外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする。

方法としては，自然体験やボランティアなどの社会体験，観察・実験，見学や調査，発表や討論，ものづくりや生産活動など体験的な学習，問題解決的な学習を積極

的に展開する。また，校内にとどまらず，地域の豊かな教材や学習環境を積極的に活用することを考慮する。

児童は，興味・関心に基づく課題，地域や学校の特色に応じた課題などについては，働きかけそうだが，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題については，個人による興味・関心に違いがある。

2. 今後の課題

興味・関心に基づく課題，地域や学校の特色に応じた課題と，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題について明確化を図る。さらに，実践力，創造性，問題を解決する力，国際社会に生きる能力，考えを築き上げる力，文化や伝統の尊重，社会貢献の精神，倫理観，思いやる心，自立心，自己抑制力，自己責任感を育成する場を構築し，他者との共生，寛容，社会との調和の図れる教育の実現を目指したい。

文献等

- 1) 昭和41年 中央教育審議会 答申
- 2) 昭和46年 中央教育審議会 答申
- 3) 昭和51年 教育課程審議会 答申
- 4) 昭和56年 中央教育審議会 答申
- 5) 昭和58年 中央教育審議会 教育内容等
小委員会審議経過報告
- 6) 昭和62年 臨時教育審議会 答申
第二次答申
第四次(最終)答申
- 7) 昭和62年 教育課程審議会 答申
- 8) 平成2年 中央教育審議会 答申
- 9) 平成7年4月 第15期中央教育審議会発足
「諮問事項」
- 10) 平成8年7月 中央教育審議会第一次答申
- 11) 平成9年6月 中央教育審議会第二次答申
- 12) 平成10年7月 教育課程審議会「最終答申」
- 13) 平成10年12月 小学校学習指導要領
- 14) 平成11年5月 小学校学習指導要領解説
「総則編」